

29日 日曜

I コリント

12:22 それどころか、からだの中で比較的に弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。

12:23 また、私たちは、からだの中で比較的に尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになりますが、12:24 かっこうの良い器官にはその必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです。

12:25 それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです。

12:26 もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれれば、すべての部分がともに喜ぶのです。12:27 あなたがたはキリストのからだであつて、ひとりひとりは各器官なのです。

12:28 そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行なう者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。12:29 みなが使徒でしょうか。みなが預言者でしょうか。みなが教師でしょうか。みなが奇蹟を行なう者でしょうか。

12:30 みながいやしの賜物を持っているでしょうか。みなが異言を語るでしょうか。みなが解き明かしをするでしょうか。



聖書の記述

12:31 あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。また私は、さらにまさる道を示してあげましょう。

脳、心臓、脊髄などは少しの損傷で大きなダメージとなる弱い部分ですが、それは体にとって非常に大切だからです。キリストの体である教会も同じで、弱いと見える人やグループが重要な場合があるということです。

また「尊びます」とは覆いをかけるという意味がありますから、衣服などで覆うという意味にも解釈できます。それは「調和」のため、「いたわり合うためです」とあります。

教会は「苦しみ」など思いを共有するところです。それはせめて一週間ごとの交わりがなければ有り得ないことでしょう。また「すべての部分」とありますから、自分の気に入った人のことだけを気にかけていれば「いたわっている」ということではなく、教会全体を思って祈り、支えることが大事です。

次にパウロは、私たちが各器官であるということから、教会の働きへの任命について説明しています。使徒、預言者、教師は人に教える働きです。奇跡やいやしの賜物を持つ人は祈る働きです。助ける者、治める者は教会の運営面で奉仕をする人でしょう。異言を語る者が最後にありますが、これについては注意を要するので、パウロは後にその説明をしています。

ここで大切なのは、「みなが…でしょうか。」という点です。それぞれの賜物が違っていて良いのです。「あの人にはこの賜物があるからすぐれている」「この人には与えられていないから劣っている」と考えるのは間違いなのです。個人も教会も主の主権によって与えられた賜物を感謝して、主のために精一杯用いるべきなのです。もしも「自分が賜物を与えられた」と思うなら、誰よりもへりくだって、その賜物を他の人のために

用いなければなりません。

そしてパウロは愛という賜物に関しては、これらよりも「すぐれ」といふと明言しています。誰もが持つべき賜物だからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

